

2019・10・7 ハードエッジの夜長 全66句

17行3段組14ポ 2019年10月7日 17:14 へ1 桐9

しまひ湯に夜長の首を漂はせ

歯車の遅速の刻む夜長かな

長き夜のレンズを研く機械かな

よき夜長あしき夜長も夢の夢

取り敢へず秋のと書きし夜長かな

長き夜の何かの弾みなる一句

スパイスの小壘夜長の台所

暑くもなく寒くもなく夜の長き

長き夜の何の弾みか句がひとつ

ポンサー途中で替る夜長かな

書に遊ぶ人に夜長のミルクティー

長き夜の花なき卓の湯呑かな

一句得て苦吟の果の良き夜長

書の余韻楽しむ夜長ありにけり

長き夜の好きこそものの上手なれ

鉛筆の黒柔らかかき夜長かな

寝酒とはならざる酒に夜の長き

長き夜の終りなき世の物語

海底に船の腐ち行く夜長かな

寝落ちたる人と夜長を同じうす

長き夜の書庫は故人を増やしつつ

噛み殺す欠伸に長き夜なりけり

推敲の夜長とも秋深しとも

長き夜の小さな部屋に眠るかな

寒暖の間に夜の長きこと

水圧の水道管の夜長かな

長き夜の深夜劇場雨降らす

丸めたる反故を投げ打つ夜長かな

赤ん坊に夜長の寢息ありにけり

長き夜の赤で書き消し書き足して

菊の香に神や仏の夜長かな

R 前略と書いて夜長となりにけり

長き夜の卓の小菊の蕾かな

胡麻締めて滴る胡麻の夜長かな

大方は夢も現も良き夜長

長き夜の中に昨日も今日もある

五六台夜長を行けり消防車

大方は良き夜長なり有り難し

長き夜の日本時間の中にをる

黒で書き赤で書き足す夜長かな

短夜に泣きし赤子が夜長にも

長き夜の魔女と子猫の物語

三つ編みの如き夜長となりにけり

長き長き夏を終へたる夜長かな

長き夜の眠りに落とるところかな

思ひやがて思ひ出となる夜長かな

長き夜の薄茶格子にもものを書く

長き夜の夢の中まで物語

思ひ出すことの楽しき夜長かな

長き夜のひそかに黄金うち延べよ

長き夜は虫に任せて早寝せむ

鉛筆の夜長表紙

2019・10・7 ハードエッジの夜長 全66句

長き夜を線香の火の沈みゆく

長き夜を線香の灰曲り落つ

長き夜を兎は耳を折り畳み

長き夜を眠るでもなく時計かな

長き夜を余すことなく眠りけり

長生きの夜長の数を重ねけり

吊されて布巾の白き夜長かな

釣の如く浮ぶ句を待つ夜長かな

灯を消して瞼を閉ぢて夜の長き

眠るもよし眠らぬもよし夜は長し

鳴き通す虫の夜長となりけり

夜長人日永のごとく欠伸して

冷蔵庫縦長にある夜長かな

蠟燭が燃え尽きてより夜の長し

蠟燭を吹き消してより夜の長し

いねてふしいねずともいしん長そ

2019・10・8 ハードエッジの夜長 全51句

スパイスの小壘夜長の台所

推敲の夜長とも秋深しとも

長き夜の薄茶格子にもものを書く

スポンサー途中で替る夜長かな

水圧の水道管の夜長かな

長き夜の眠りに落るところかな

鉛筆の黒柔らかき夜長かな

赤ん坊に夜長の寝息ありにけり

長き夜は虫に任せて早寝せむ

海底に船の腐ち行く夜長かな

前略の後の夜長となりけり

長き夜を線香の火の沈みゆく

丸めたる反故を投げ打つ夜長かな

短夜に泣きし赤子が夜長にも

長き夜を線香の灰曲り落つ

菊の香に神や仏の夜長かな

長き長き夏を忘るる夜長かな

長き夜を兎は耳を折り畳み

胡麻締めて胡麻の滴る夜長かな

長き夜のお化けと遊ぶ物語

長き夜を眠るでもなく時計かな

五六台夜長を行けり消防車

長き夜のレンズを研く機械かな

長き夜を余すことなく眠りけり

黒で書き赤で書き足す夜長かな

長き夜の花なき卓の湯呑かな

長生きの夜長の数を重ねけり

思ひやがて思ひ出となる夜長かな

長き夜の好きこそもの上手なれ

吊されて布巾の白き夜長かな

思ひ出すことの楽しき夜長かな

長き夜の終りなき世の物語

灯を消して瞼を閉ぢて夜の長き

糸を垂れ掛かる句を待つ夜長かな

長き夜の小さな部屋に眠るかな

読み終へて余韻に浸る夜長かな

歯車の遅速の刻む夜長かな

長き夜の赤で書き消し書き足して

眠るもよし眠らぬもよし夜は長し

暑くもなく寒くもなく夜長の長き

長き夜の続きは夢の物語

鳴き通す虫の夜長となりけり

書に遊ぶ人に夜長のミルクティー

長き夜の卓の小菊の蕾かな

夜長人日永のごとく欠伸して

寝酒とはならざる酒に夜の長き

長き夜の日本時間の中にをる

蠟燭が燃え尽きてより夜の長し

寝落ちたる人と夜長を同じうす

長き夜の日本時間の中にをる

蠟燭を吹き消してより夜の長し

2019・10・∞ 全然堂歳時記 夜長 全20句

暑くもなく寒くもなく夜の長き

読み終へて余韻に浸る夜長かな

吊されて布巾の白き夜長かな

黒で書き赤で書き込む夜長かな

眠るもよし眠らぬもよし夜は長し

長き夜をお化けと遊ぶ物語

長き夜の卓の小菊の蕾かな

長き夜のレンズを研く機械かな

寝落ちたる人と夜長を同じうす

灯を消して瞼を閉ぢて夜の長き

長き夜の中に昨日も今日もある

歯車の遅速の刻む夜長かな

スポンサー途中で替る夜長かな

長き夜は虫に任せて早寝せむ

菊の香に神や仏の夜長かな

長き夜を線香の火の沈みゆく

長き夜の薄茶格子にもものを書く

書に遊ぶ人に夜長のミルクティー

水圧の水道管の夜長かな

胡麻締めて胡麻の滴る夜長かな

大型レンズ研磨機
10.11

2019・10・11 全然堂歳時記 夜長 全22句

鳴き通す虫の夜長となりにけり 長き夜をお化けと遊ぶ物語

長き夜の卓の小菊の蕾かな 書に遊ぶ人へ夜長のミルクティー

長き夜の日本時間の中にをる 深々と余韻に浸る夜長かな

みつしりと水道管の夜長かな 寝落ちたる人と夜長を同じうす

暑くもなく寒くもなく夜長なり 長き夜を余すことなく眠りけり

眠るもよし眠らぬもよし夜は長し

長き夜は虫に任せて早寝せむ

長き長き夏を忘るる夜長なり

長き夜を線香の火の沈みゆく

長き夜の中に昨日も今日もある

歯車の遅速の刻む夜長かな

長き夜の胡麻を圧して胡麻油

スポンサー途中で替る夜長かな

長き夜にしばし赤子の良き眠り

長き夜の白き布巾の布巾掛

黒で書き赤でなほ書く夜長かな

句の屑をくしやと投げ打つ夜長かな